

「北海道衛星」大樹に開所

旧国鉄舎 小型人工衛星開発の拠点に

「日本に新しい宇宙産業創出を」



テープカットを行う酒森会長、伏見町長、佐鳥社長、小谷内議長、植区長（左から）

【大樹】北海道衛星株式会社（本社大樹町、社長・佐鳥新北海道工業大学助教授）の大樹本社屋開所セレモニーが1日、社屋となる旧国鉄大樹駅舎で行われた。以前、「町の玄関口」だった場所が、小型人工衛星「大樹」の開発に取り組む同社の拠点として新たに稼働する。（松村健裕）

同社は農作物の作況調査などで活用できる「ハイパスベクトルカメラ」を搭載した「大樹」の2007年度打ち上げを予定している。

式典には約30人が出席。佐鳥社長、伏見町長、小谷内町議会議長、酒森清町スベース研究会会長、椿修町行政区長がテープカットを行い、開所を祝った。

佐鳥社長は「会社の使命は日本に新しい宇宙産業を創出すること。航空宇宙に熱意のある土地で本社を開設できたことは大きな喜び」と述べ、伏見町長は「旧駅舎が製品の製造や営業の拠点となるようご支援したい」と語った。

社屋内には宇宙航空関連の写真パネルを展示。佐鳥社長からは席上、同カメラを17日から中国北京市で開かれる農業関連

の国際展示会「チャイナAGトレードフェア2005」に出展し、世界に売り込むことも報告された。